

じでした。ただ、それ以上に努力できたのは日本に行きたいという目標があったからこそその結果だと思えます。

日本に来て私は大きな壁にぶつかりました。中国の日本語の先生はいつも日本語で授業を行ったし、自分も結構勉強してきたからと思い、日常生活には問題ないだろうと自信満々でした。でも、どうしてなのかわかり取れないし、まったく話せません。マックで店員さんに「店内でお召し上がりでしょうか」と聞かれたときは、意味がわからなくて適当に「はい」と答えました。もし、読解の中でこの文章が出てきたら絶対にわかります。そのとき、ふっと気づきました。私はいつも漢字で意味を知り、読むだけだったので、実際に日本語で言われると、その言葉を漢字に直すまでに時間がかかりました。言葉は読む、書くだけではなく、聞く、そして話せる、人とコミュニケーションをとるのが一番の目標です。

私は他の国の言葉を習うなら、一回ぐらいはその国に行って実際にその国の人と話し、食べ物を食べ、現地の習慣に合わせて暮らしてみても言葉もうまくなると思います。私は今、もっと日本人のように話せるようになりたいと思います。イントネーションに気をつけています。日本語は私に自信をもたらし、日本語の勉強を通して語学に興味を持ち、その魅力にはまりました。これからは、フランス語にも挑戦したいと考えています。

ポルトガル語を話したい

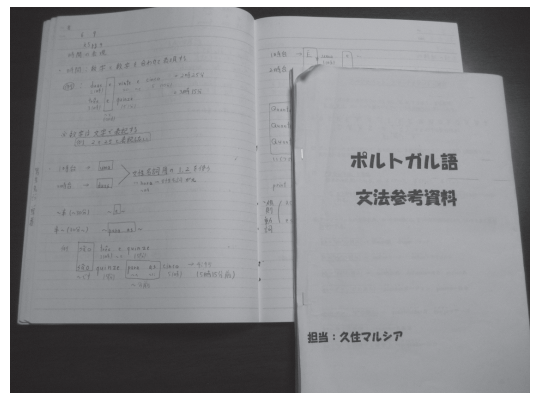
新しい変更と深まり広がる知識

地域政策学部 1年 青山昇平

私はポルトガル語を履修していますが、選ぶとしたきっかけは地元の環境でした。生まれながら今まで豊田市に住んでいますが、工場な

どが多くある関係でブラジルの方が多く住んでいます。いつかブラジルの方とお話をしてみたいなと子供の時から思っていました。第二外国語を選択する際に良いチャンスだと思い、ポルトガル語にすることを決めました。

英語が苦手な私は授業が始まる前に、勉強しても授業についていけるかどうか、理解できるかどうかなど、ポルトガル語に対して不安になっていました。しかし、実際に受けてみると想像していたものとは違いました。英語とは似ているようで全く異なる様式で、名詞には男性名詞、女性名詞があることなどに新鮮味があり、授業を進めていく中で興味が引き立てられていきました。そして、単数や複数によって男性名



詞、女性名詞のスペルは変わってきますし、複雑なところが難点ですが、それがまた面白いです。動詞は主語に合わせて変化するので、規則動詞では語尾を変えればいだけですが、不規則動詞になると主語に合わせた単語を覚えなといけませんし、現在形や過去形、未来形でもそれぞれ異なったりするので大変です。自分がポルトガル語を分かってきた時の面白さが良いところです。発音も独特で、巻き舌など日本語では発音しないようなアクセントが多く、声を出してポルトガル語を読むときは、なるべく先生の発音通りにするよう努めています。

授業とは関係なく、ポルトガル語は英語のスペルと似ていると思ったことがありました。授

業とは別に、授業を受けている時、板書したノートを眺めていた時に新しい発見を調べてみようと思うこともあり、色々知りたいという勉強意欲が湧いてきます。

ポルトガル語は、英語のように難しいというようなことはなく、面白いし積極的にスキルとして身につけていきたいと思えるような語学です。愛知県などは、特に外国の方と関わる人が多いと思うので、ポルトガル語を勉強してコミュニケーションができたらと思います。

ドラマや音楽も楽しんで… 韓国語を学んでいます！

国際コミュニケーション学部 3年
山田捺津子

私が第二外国語を韓国語に決めた理由は、大学入学当時、友人の影響で韓国ドラマやK-POPに夢中になっていたからでした。そんな単純な理由で学び始めた韓国語ですが、日本語と文法が同じで、似たような発音の単語が多く、非常に学びやすい言語だと感じました。

簡単な会話や文章が読めるようになった昨年の夏、私は韓国フィールドワークに参加し、またその半年後には友人と2人で韓国旅行へ行く機会がありました。フィールドワーク参加時は通訳の現地学生と共に行動していたため、韓国語を使わなくても不自由はありませんでしたが、個人旅行となるとそうはいきません。明洞や南大門などの観光地は日本語が通じる場合が多いのですが、私たちが宿泊したホテルの周辺はほとんど日本語が通じず、初日に夕食をとるために入った食堂では入店してから退店するまでの間ずっと不安で、戸惑っていたことをよく覚えています。しかし、そこの店員さんは韓国語が不自由な私たちに、文章を簡単な言い回しに変えて何度も説明して下さったり、話しかけて下さったりしました。それに対して、私たちが

知っている単語を使って、たとえ文法や発音が間違っていたとしても何か一言は返すように心がけました。ほんの少しですが会話できたことがとても嬉しく、それ以降はできる限り入った店先では韓国語を使おうと決め、実行したことでとても充実した時間を過ごすことができたと思います。そして、次に韓国に行く時には「もっと会話ができるようになろう！」という新たな目標を立てるきっかけともなりました。

この経験から何か母語でない言語を学ぶ際、ヤル気を継続させるためには、その言語を母語とする人との関わりを持つことが非常に重要だと感じています。また、ただ教科書や参考書で勉強するだけではなく、たまにはその国のドラマや映画、音楽などを使用して、楽しみながら学ぶことも良い息抜きになります。

大学に入学して、ただなんとなく第二言語を学んでいる方も多いと思いますが、私はただ単位のために第二言語を学ぶのは非常にもったいないと感じます。単位取得以外にも何か目的や目標を持って学ぶ方が、より充実した学習ができるのではないのでしょうか。それがどんなことであれ、糧になるのであれば、その言語を学ぶ十分な理由になると思います。

タイ語を学んで…

日本との深い縁！
国際コミュニケーション学部 4年
岡部優一

皆さんタイってどんなイメージですか？私は愛知大学に入学して第二言語で履修する以前は、象のイメージしかありませんでした（笑）。日本で普通に生活していたらタイ語をみる事はないし、聞くこともないと思います。しかし、タイって意外に日本と大きく関わりがあるのですよ。昨年、タイの大洪水でたくさんの日本を代表するメーカーが被害を受けたのは記憶に新